

SAJ Farmの土づくりについて

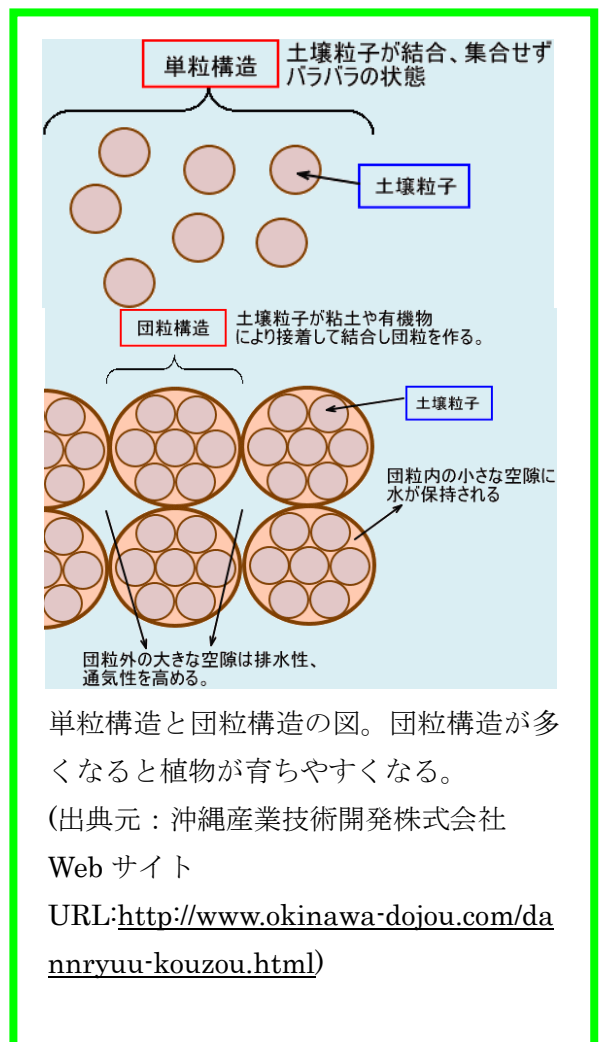
カンボジアでは3カ月ぶりに雨が降りました。降水の後、レモングラスの生育が非常によくなり、自然の偉大さを改めて感じます。これから5月までは日中の気温が40度近くまで上がる一番暑いシーズンです。昼間の暑い時間はなるべく室内作業を行い、体調管理には十分気をつけて作業をしていきたいと思えます。

今月は農業、特に有機農業を行う上で一番大事な土づくりに関するSAJ Farmの取り組みについてお伝えしたいと思います。

SAJ Farmの土は細かい砂とカルシウムが多く含まれているので、雨が降ってしばらくするとセメントのように土が固くなるのが特徴です。砂やカルシウムが多い為か、土の色は白く、養分が全体的に少ないです。また、SAJ Farmのあるコンポンチュナン州は陶器やレンガの製造が盛んな地域です。正直なところ農業に向いている場所とはお世辞にも言えませんが、このような土地でも農業をしている方は多く、SAJ Farmではこのように農業をするのが困難な地域でも土壌を改良し、作物が獲れるようにすることで、多くの農家さんの収入を増やすことに貢献できればと考え、取り組んでいます。

現在の農場の大半の土は右下の図にある単粒構造という状態になっており、水や肥料を与えても土が吸収できず、流出してしまいます。その為、動物の糞や植物の残渣などの有機物を出来るだけ集め、田畑に投与することで土の粒子を結合させ、右下の図にある団粒構造と呼ばれる状態を作ろうとしています。団粒構造とは例えばスポンジのような状態になった土のことで、水や空気、肥料を蓄えることが出来ます。日本であれば動物の糞や植物残渣から堆肥を大量に製造している施設があるので、有機物を集めようという意志とある程度のお金があれば可能なのですが、カンボジアではそのような施設が無い為、有機物を集めるということが困難な状況です。そんな中、少しずつ有機物を集めることができるようになり、今では①コーヒー粕、②鶏糞、③豚糞の3種類のものに関しては毎月定期的に回収を行っています。

①のコーヒー粕はプノンペンでコーヒーの販売をしている日系の会社から無償でいただいています。カン



ボジアのコーヒーはロブスタ種と呼ばれる豆を使用しています。この豆は日本で良く使われるアラビカ種よりも苦みが強い種類らしく、コーヒー豆以外にも大豆やバター、醤油、砂糖などを混ぜることで飲みやすい味に調製しているということです。大豆には肥料分も含まれており、毎月約2tいただき、田畑に散布しています。

②の鶏糞は農場から車で1時間くらい行った養鶏所から購入しています。鶏糞は肥料分が多いので土づくりのほか、レモングラスの生育を促進させる為に使用しています。この養鶏所からは毎月4tほど購入しています。

③の豚糞も農場から車で1時間足らずの養豚所で購入しています。この養豚所では集めた豚糞から発生するメタンガスを集め、養豚所の豚やそこで住む人の為に使われています。購入する豚糞はメタンガスを発生させた後のものなので発酵が進んでおり、非常に土に近い状態になっています。まさに土づくりの為に有機物であり、これから野菜を試験栽培するところで使用していく予定です。毎月大体2~3tを購入しています。

それから、購入するだけではなく、自分達の力で有機物を確保出来るように養鶏を行ったり、緑肥の栽培を行っています。緑肥とは植物を植えて栽培するのですが、実などを収穫するのではなくそのまま土に鋤き込み肥料とすることを言います。カンボジアの農家さんが大金をかけて一気に土を良くすることは難しい為、カンボジアの農家さんでも出来る方法を模索し、提案できるようにしていきたいと思えます。

現状、有機物の確保に勤しんではいるのですが、まだ全ての田畑に有機物を投与するのに十分な量を確保できていない為、優先順位を決めて投与しています。その中でも一番力を入れて有機物を投与していた畑は土の色が変化し、実際に作物の生育も良くなっています。本当に少しずつですが、やるべきことを継続することができれば土が良くなっていくというのは実感できます。これからも継続して行うことで更によくしていきたいと思えます。



有機物の散布作業は機械がないので手作業です。人海戦術で行っています。



鶏舎は高床式になっており、鶏糞はその下に落として集めます。



メタンガス抽出後の豚糞。土に近い非常に良い有機物です。

編集後記

カンボジアに来て1年が経ちました。非常に学びの多い1年でした。2年目は少しでも学んだことを活かしていけるように業務に励んでいきたいと思えます。

早藤